



ふれあい 放水路

1997
(平成9年)
第44号
11月



秋色あざやかに

乙立おたち小学校のイチヨウ

立久恵峡から神戸川に沿って上流へ上ると、秋空に鮮やかに映えるイチヨウの木が見えてきます。出雲市立乙立小学校の校庭の一角にとっしりと構えるこの木は、胴回り三四五センチ、高さ二十メートル、推定樹齢百年の大木で、出雲市の名木に選ばれています。

大正十五年、小学校が現在の地に移転した時に移植されたもので、おじいさん、おばあさんの世代から現在に至るまで、子供たちの成長を見守ってきました。

学校のシンボルとしての存在だけでなく、乙立小学校では毎年、子供たちや保護者のみなさんと銀杏ぎんなんを集め、「銀杏文庫」として学校図書に資金などに役立てているそうです。

この学校に通った人は、紅葉の時期になるとこのイチヨウの木が思い出されるのでしょうか。何世代にも渡って同じ思い出の木があることは素敵なことですね。

着工前

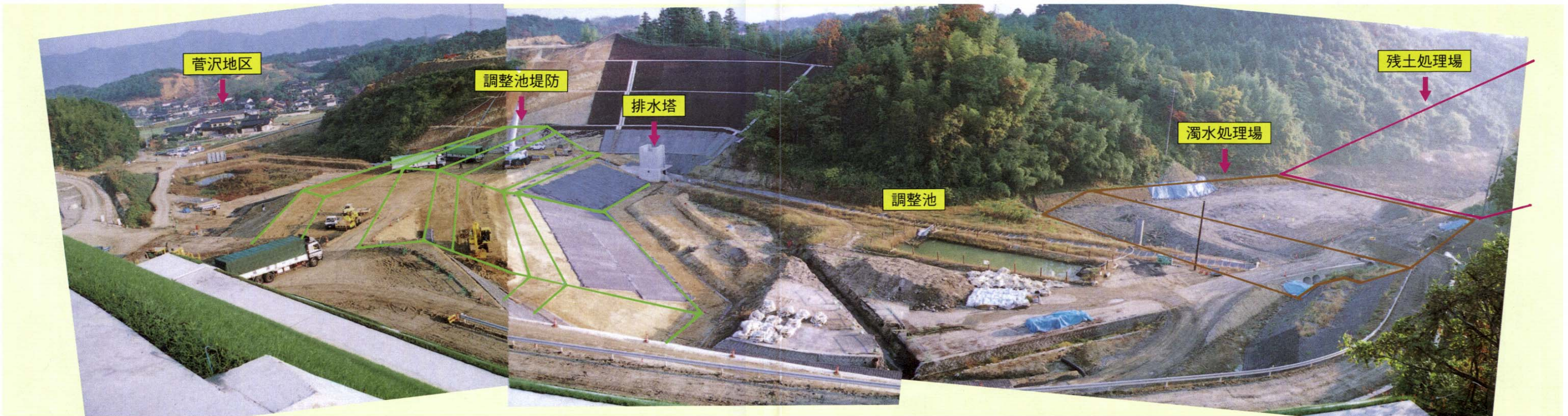
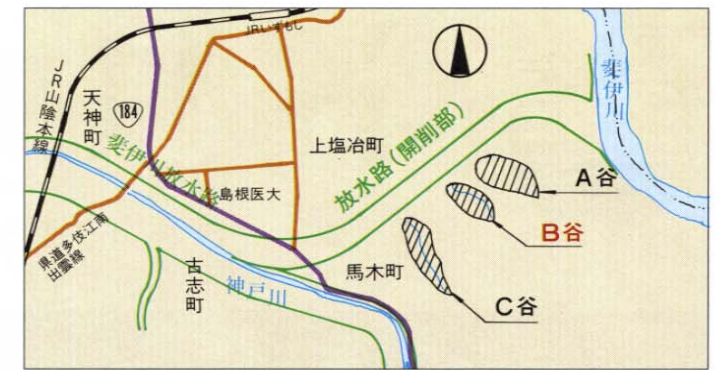


きつね ぎこ

進むB谷(狐廻谷)残土処理場工事

B谷(狐廻谷)では、平成8年度から着手している残土処理場関連の防災調整池や地盤改良の工事が着々と進んでいます。
今月は、大規模な残土処理場を支える地盤処理関連工事の進捗状況をお知らせします。

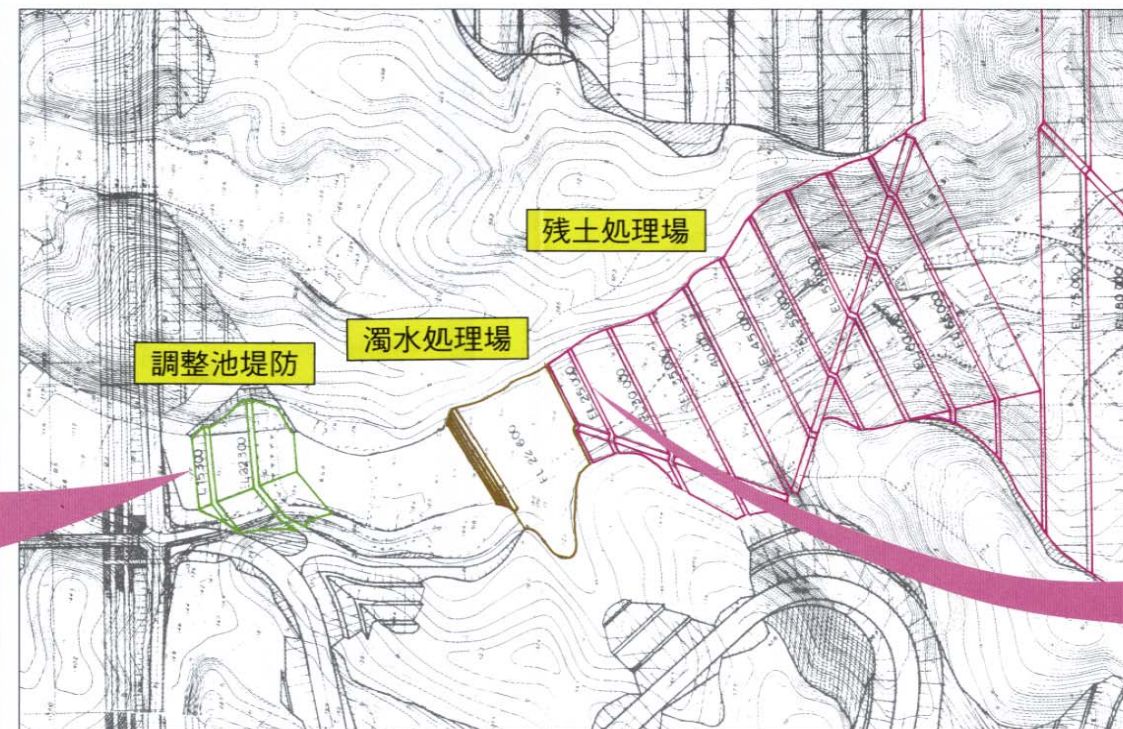
位置図



調整池の堤防を施工する箇所は軟弱地盤であるため、砂杭(振動で締め固めた砂の杭)を打ち、地盤を強化します。
砂杭の本数 2,677本
平均長さ 6.5m



堤防に使用する土は、近くの山から掘削した良質土を使用して施工します。
使用土量 28,000m³



残土処理場の地盤は軟弱土が堆積しています。軟弱土は盛土沈下などの原因となるため撤去します。



軟弱土を撤去した所に掘削岩を入れ、残土処理場の基盤とします。

B谷で掘り出された軟弱土(粘土)は仮置きし、拡幅部の堤防の表土として再利用する予定です。

ふれあい放水路
通信

自然とのふれあい

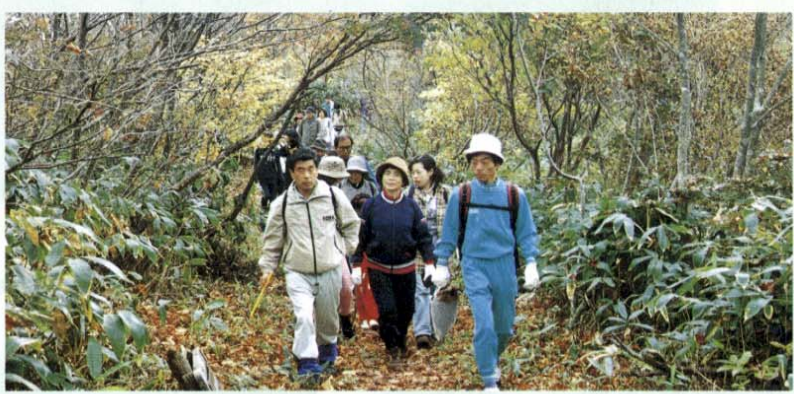
斐伊川源流散策会

斐伊川は、中国山地の船通山(標高一四三三m)を源に発した自然の生態系に恵まれた河川です。出雲工事事務所では、斐伊川の源流の自然観察を通じて河川事業と河川環境の保全に理解を深めていた。だごごと、十月二十五日、島根自然保護協会との共催により、「斐伊川源流散策会」を開催しました。

当日は天候に恵まれ、七歳から八十一歳まで幅広い年齢層の六十五名の方が参加され、自然環境への関心の強さがうかがえました。仁多郡横田町の船通山登山口から源流を目指して出発、自然保護協会の方から自然植物についての説明を受けながら歩き、三十分ほどで源流に到着しました。参加者の中には流れ出る冷たい湧き水を飲んだり、「きれいな水だから」と持参したボトルに水を酌んで持って帰る方も多くいらっしゃいました。その後、さらに頂上を目指して約一時間歩き、無事、頂上に到着しました。

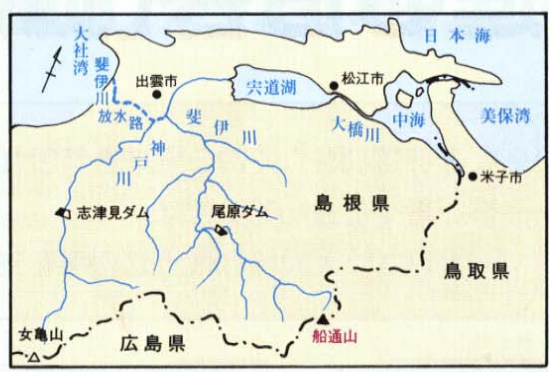


▲ここが斐伊川の源です。



▲色づいた秋の山道はとてもきれいでした。

位置図



自然保護協会の方から斐伊川のすばらしさや重要性についての説明を受け、自らも自然とふれあつた参加者の方から「斐伊川の源流を見てよかつた」「また参加したい」などの声が多く聞かれました。あらためて自然に対する理解を深めていただけたものと思えます。

出雲工事事務所では、今後も自然の保護と創出に関する地域交流・啓発活動を目的とした自然観察会を続けていく予定です。

神戸川周辺の写真募集

神戸川あるいはその周辺の写真を募集します。あなたの好きな風景、変わりゆく姿など何でも結構ですのでお寄せ下さい。



建設省中国地方建設局
出雲工事事務所
〒693 出雲市塩冶有原町5丁目1番地
☎(0853)21-1850

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。
問い合わせ先：ふれあい放水路担当

斐伊川放水路の工事実施状況



(平成9年10月以降の発注工事)

工事名	業者名	工期
半分防災調整池工事	今岡工業(株)	自至 H9年10月16日 H10年3月31日
崎屋水路工事	出雲土建(株)	自至 H9年11月13日 H10年3月31日
下流部用地管理その2工事	出雲土建(株)	自至 H9年11月18日 H10年10月31日
上流部用地管理その2工事	(株)谷本組	自至 H9年11月19日 H10年3月31日